

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 1 日

事業所名 きらり中庄(ひかり)

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		7	3	・倉敷学園の療育室やホール、屋外などを活用したり、床に敷いたマットを都度、つけたり外したりして活動や食事のスペースを確保している。コロナ禍でのソーシャルディスタンスの徹底までは難しい。 ・狭いです	クラス内の物品の整理整頓、共有スペースの使用法等、他事業所とも協力しながら、お子さんにとって過ごしやすい環境を作っていく。
	2	職員の配置数は適切である	3	7		マンツーマンでの対応ができる配置に関しては、配置できているが、看護師の人数によっては、休みたくても休めない状況もある。 ・それぞれの職種の中で勤務を調整している。	配置基準以上の職員配置とはなっている。ケアが必要なお子さんの人数に応じて看護師配置が出来るよう検討していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	2	毎回使用する場所ではないが、正面玄関にはしっかりしたスロープがない為、簡易的な物を使用している。	構造上、設置が難しい為簡易的な物ではあるが、安全に使用していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	2			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	1			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	3	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	3		改善までは至っていない	今年度受審をした為、現段階では改善に至っていない。今後出てきた改善策を取り組んでいく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10				
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	2		経験の浅い職員や、アセスメントに関しては専門ではない職種もいる為、他職種で情報を共有しながら実施している。	ガイドラインに沿って評価、アセスメントを行っていくために、職員のスキルアップを行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	4	1		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	1	集団での活動に加えて。お手伝いや役割活動、個別課題などを実施している。	利用児さんの状況に合わせて活動内容を今後も検討していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	1			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10				

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	3			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	1			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6	4			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	2			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	2	1	下校後の支援ではない為、送迎のトラブルなどはない。行事の予定などは保護者とのやりとりで確認している。	保護者の方に学校の情報を伺っている状態であるため、今後は直接学校ともやりとりをしながら連絡調整を行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	3			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3	1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	3	1	現在、学校を卒業される方がまだいない	該当児がいらっしゃらないが、今後時期が来たら情報共有を進める。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	6			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	8	多くはないが、行事の際には敷地内にある保育園の園児も一緒に参加している。また、課外活動を今後増やしていけるよう検討している。	同年齢の学齢児とは関わりが持ててはいない。今後どのようにすれば関わりが持てるかを検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	6	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	1		画像や動画などを連絡帳に貼るなどして状況が伝わるように努めている。	保護者の方のご要望に応じて、伝わりやすい方法で情報共有を行っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	6			
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10			機能面での難しさもある為、専門職に相談しながら実施している。	どの職員でも保護者の思いを聞き取ることが出来るよう、職員育成を行う。また助言については、様々な職員と相談しながら返答出来るようにしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	1		保護者が集うことのできる茶話会や行事を計画し実施している。	定期的に茶話会を実施することで、保護者同士の繋がりをもつことが出来るようにしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	2	1		

は等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1			
	35	個人情報に十分注意している	10				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	2	1	コロナ禍において、積極的に招待することが出来ていないが、行事を計画実施している。	栗坂フェスティバルやレインボーランド等の行事に、感染対策を行いながら招待出来るように検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2	1	防犯マニュアルが保護者に周知されているのかどうか把握できていない。	現在、マニュアルがあることは周知しているが保護者の方に気軽に見て頂ける位置には設置出来ていない。今後、下駄箱などに置いて置く等する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	2			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10				